

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070702800		
法人名	有限会社ケア・サービスさかえ		
事業所名	グループホームこころ		
所在地	北九州市八幡西区木屋瀬二丁目7番8号		
自己評価作成日	令和4年7月30日	評価結果確定日	令和4年9月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	令和4年8月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染症拡大防止に常に気を付け、マスク着用の徹底、十分な換気や適切な手指消毒を行っている。空気循環式紫外線洗浄機を4台購入し、設置している。 又、職員やご利用の方が触れる場所は、1日3回の消毒をし感染防止に努めている。 3回目コロナワクチン接種を行って以降は、人混みを避け時折外出をしている。 面会は、マスクを着用し居室の窓を開け、換気を行いながら、短時間ですが可能。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設18年目の現在も、理念の「地域の中の一世代として穏やかで楽しく尊厳ある生活を目指す」は新人職員に引き継がれ、「一番良い支援は何か」を全職員で検討している。定期的なアセスメントの変化は印字の色を変えて記載したり、モニタリング結果は理解しやすく数値化するなどの工夫で、現状に即したケアを日々展開している。看取りの希望場所の選択肢や親族の希望欄も設けた意向確認書を取り交わし、看取りを自然なことで捉えて2日前に看取りを支援している。今年3月から感染防止に努めながら運営推進会議を再開し、空気循環式紫外線洗浄機を4台購入して家族との面会を支援している。社内研修でハラスメントに関する情報を共有し、入居者だけでなく職員の人権教育に取り組み、今後も地域や家族の理解や協力を得ながら、更なる理念の具現化が期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)		1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名 **グループホームこころ**

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見やすい場所に掲示している。	正面玄関に掲げた理念を、オリエンテーションやミーティングで共有している。新人職員も理念を諳んじ、一緒に楽しくレクリエーションをしながら、穏やかで安心した生活が継続している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で活動交流が無かった。	コロナ禍で地域行事は中止になっていたが、今年は11月の宿場祭りの見学を予定している。自治会加入を継続し、散歩や買い物で声をかけられたり、介護の質問や相談が寄せられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に接する機会が減った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年の3月・5月は開催できたが、それ以前は活動報告のプリントを配布のみ	今年3月より、感染防止に努めながら会議を再開している。地域包括支援センター職員、民生委員、家族代表などの参加があり、素朴な介護に関する質問等を受けている。詳細な会議録は資料とともに玄関で公表している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの職員の方に、ホームの空室状況を伝え、地域で困っている方が居ないか等たずねている。	市の危機管理センターから大雨に関する情報や避難の問い合わせは今年は無い。市に空床報告を毎月行い、問い合わせがあれば対応する等、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年1回は、社外研修に参加している。身体拘束ゼロ委員会を組織している。身体拘束適正化検討委員会を、3ヶ月毎に実施している。離所の防止にチャイムを設置している。	身体拘束に関する外部研修内容は伝達講習で共有し、定期的に身体拘束適正化委員会を開催している。言葉や薬による拘束について理解している。無断外出や夜間の転倒に配慮し、玄関にセンサーを設置し、ベッド周りにセンサーを使用している入居者もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	社内・外での研修を行い、高齢者虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市のパンフレットを掲示し必要に応じ活用し、支援出来るようにし、現在は1名の方が入居している。 (成年後見)	日常生活自立支援事業や成年後見制度の資料を玄関に掲示し、必要時に支援できるように学習を継続している。後見人と家族が共に役割を担い、成年後見を行っている入居者が1名ある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解をいただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。	感染防止に努め、時間などを制限した面会を再開しているが、玄関で帰る家族もある。家族の意見や要望はほとんど無く、ホーム便りに外出や行事の際の笑顔の写真を掲載し、入居者の暮らしぶりを伝えている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行なう社内ミーティングで、要望や提案を尋ね職員が意見しやすい職場環境に努めている。	毎月、職員が参加しやすい14時からミーティングを開催している。入居者の安全と職員の負担軽減のためにベッドの位置を変更したり、食事摂取方法や口腔ケア、シャワーチェアの高さの変更に取り組むなど、率直な意見交換が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の能力に応じ業務を任せている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢、性別は問わず募集しているが、思うように人材確保ができていない。(遅番)	入居者の尊厳に配慮し、優しく思いやりのあることを採用条件としている。20～60歳代の男女の職員が其々に応じた働き方で就労している。資格取得の支援や希望休が考慮され、休憩室が設けられ、夜間はソファベッドで横になることも出来る。オンラインの外部研修を職員が交代で受講している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権週間に合わせ社内研修をした。	昨年12月は市政だよりを参考に社外の人権研修に参加し、伝達研修を行っている。今月はハラスメント研修を行い、入居者だけでなく職員の人権教育や啓発活動に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り、オンライン研修に参加している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	今年は、ありませんでした。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限りご本人やご家族の方との面談を行い希望や要望等聴いている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の相談時(電話・訪問)から詳しくお話を聴き、可能な限りご本人にも見学に来ていただいている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じ他のサービスや施設の検討をすすめている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	業務を優先する事ないように常に心がけ一緒に過している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時はもちろん必要に応じて電話での現状報告(日常的な出来事や急変時等)し、ホームのアルバムを回覧したり年に3～4回はホーム便りを配布している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方や友人関係の方宛に本人が書いた手紙を定期的に出せるようにしている。	友人の面会制限はしていないが、高齢で来訪が困難なため、手紙のやり取りを支援している。訪問理美容の利用が継続し、近隣の方が遊びに行ったと、土産を持って来訪されている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コロナの影響で活動交流は出来ていない。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お手紙を定期的を送っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人及びご家族の方に希望を聞き、出来る限り希望に応じられる様に取り組んでいる。	「帰りたい」と言える方には声かけを共有し、思いを表出できない方は表情や涙ぐんでないかななどを観察している。居室で一人で過ごすことが多い方には、そばに寄り添うなど、安心して暮らせるよう意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方やご本人に生活歴等を聞き取り職員全員で把握するように個人ファイルに綴じている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に心がけ現状はどうなのか観察し、日々記録している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活歴等の情報を収集ご本人や、ご家族の意見や要望を取り入れ、介護計画を作成している。	入居者や家族の意向、職員の気づきを話し合い、「一番良い支援は何か」を検討している。定期的なアセスメントの変化は印字の色を変えて記載したり、モニタリング結果は理解しやすく数値化するなどの工夫で、現状に即したケアを展開している。	課題の話し合いやモニタリング、評価の話し合い等の書類を分かりやすく整備し、実践している個別ケアを計画書に落とし込み、さらに現状に即した介護計画の作成を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人とのやりとりを行なった介護等を詳細に記録している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り柔軟に対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の能力に応じ家事を行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に応じて入居前のかかりつけ医を継続しているが、現在はホームでの往診者が多い。	入居以前からのかかりつけ医受診もあるが、協力医の訪問診療を受ける入居者が多い。2名の看護職員が、身体状況や状態変化を報告し、適切な医療受診を支援している。訪問歯科の利用者もいる。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護記録とは別に気づきノートを活用し個人の情報を伝達している。 常に看護師へ報告・連絡・相談し健康や安全に配慮したケアを行なっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今年は、入院した方はいない。 早期退院に向けたマニュアルを作成		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療的な場合は病院への搬送が多いがご本人や家族の意向を入居時に確認している。	重度化した場合の指針や看取り体制マニュアルを整備し、入居当初に同意書を取り交わしている。看取りに対する意見の統一ができるように、希望場所の選択肢や親族の希望欄も設け、状況に応じて対応している。看取りを自然なことで捉え、「2日前に看取りました。職員の不安は無かった。」と管理者は話している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時マニュアルを作成し見やすい場所に掲示してある。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時避難マニュアルを作成し避難訓練を利用者と共に行っている。 地域の防災訓練に参加した。	毎年、昼夜を想定した訓練を実施し、課題を全職員で話し合っている。ホーム前の修理工場を避難場所としての協力が継続し、6月に地域の防災訓練に管理者が参加している。玄関には、AEDや持ち出し袋が整備され、備蓄台帳で備蓄食料の消費期限をチェックしている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしい暮らしが継続出来る様に、常に配慮し行なっている。	入居者に敬語で話しかけ、名字で呼称しているが、愛称で呼称する場合は家族の同意を得ている。さりげない声かけが実践され、歯磨きが嫌で他の事をしようとする入居者には、穏やかな声かけで不快にならないように配慮している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人との対話に基づき個人を第一に考え支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活を送れるように心がけているが比較的自由に過ごしている。 食事時間も臨機応変に対応している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用している方が多い。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の形状や自助具の工夫、食事時の姿勢等個人に合わせている。 密接を避ける為、少人数で食事をしている。	少人数ずつ時間をずらし、できるだけリビングのテーブルで食事をしていただいているが、栄養補助飲料を使う方もいる。日ごろの会話で何を食べたいかを尋ねたり、食器拭きなどをお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士に献立の作成をお願いし栄養バランスは十分である。食事量や水分量は1日を通じ記録を残している。その日の気分で食事(ご飯)が摂れない場合は、好みの食べ物を補食している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、個々に応じた介助等をしながら行なっている。又歯磨きが困難な方には、スポンジを使用しイソジンウガイ薬で口腔内を消毒をしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人の排泄パターンをチェックしその都度トイレでの排泄を心がけている。	排泄チェックでパターンを把握し、排泄の自立が継続できるように支援している。紙パンツ使用の方も昼夜ともにトイレでの排泄を支援し、保温ジャーに用意した温おしぼりで清拭をしている。ポータブルトイレは、入居者がトイレと認識出来ないので使用していない。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為に、こまめに水分補給をしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	2～3日のペースで入浴している。 毎日お風呂にお湯を入れるので、いつでも入浴は可能である。重介護の方は、全身清拭の場合が多い。	週3回の入浴を支援しているが、毎日浴槽にお湯をはるので入浴可能となっている。入浴を億劫がる入居者には、時間や介助者を変えて声をかけているが、無理強いせず、翌日に変更している。同性介助の希望にも対応をしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転が無いように心がけて、体操や外気欲を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医からの処方された説明文を個人ファイル綴じ周知している。 また処方の変更があった場合は看護師から介護職員に伝達している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事のお手伝いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出を自粛している。 近くの公園に散歩に出かける程度。	コロナ禍以前は近隣の店舗に出かけ、お茶やパフェを楽しんでいたが、現在は天候を考慮しながら近くの公園に車いすで散歩に出ている。行きたい場所を尋ねる時は、具体的に「花見に行きますか」などと、考えられるように尋ねている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、金銭を持参している方はいない。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	時々手紙を送る程度。 1名の方は携帯電話を持参しているが、電話の利用は殆ど無い。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	イベントの写真や利用者の作った壁画を飾っている。	ホーム全体がバリアフリー構造で、事務室から全体が見渡せ、中央にテーブルや椅子、奥にソファが置かれ、壁に飾られたボードは車椅子利用者の目線に合わせて通常よりも低い。清潔な床は木目調で、2重のカーテンで採光を調整し、空気循環式紫外線洗浄機4台が作動する居心地良い空間では、ゲージの中で愛犬こころちゃんが眠っている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居心地の良い場所を確保している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各自居室には自宅で使用していた馴染みのあるベッドや整理筆筒等を持ち込み生活しているが、最近では、荷物の搬入があると、入居を見合わせる方が増えた。	昼食後は殆ど入居者が自室で午睡をされる。居室には、ベッドやタンスが置かれ、自宅からの持ち込み品が置かれている部屋もあるが、ホームの備品も多く、家族の写真や色紙を飾り、その人らしい居室作りに努めている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで各所に手摺りを設置しトイレや居室には表札を付け出来る限り自立した生活を送れるようにしている。		